

## 桜苗木プレゼント

# 立派に育てます

南陽市さくらの日の最大の行事「さくら苗木プレゼント」が、4月20日朝9時から大鳥居前で今年も行われました。

「孫の名前が桜なもんで記念に」「家を建てたから」などと2時間も前から並ぶ賑わいで、6種類で30本の苗木はたちまち終了。

植えてみてどうだったか聞いてみたいとのスタッフの声も。

## 次代に伝える桜を

先人が植栽した桜を守る桜守の育成は、保存活動を行っている団体や会員の大きな課題の一つである。

この課題である桜守を育てるために、昨年に引き続いて「第二回桜守育成事業」を12月1日に南陽市中央公民館で35名の参加者を得て開催した。

◎講演「被災地で命を放つ桜を後世に～レンズを通して見た桜～」講師 写真家 大沼 英樹 氏

◎講義「よみがえった三春の滝桜 その再生と保存について」講師 樹木医 鈴木 俊行 氏(福島県)

被災地の桜の写真を通して、そこに住む人々と桜とのかかわりを実感し、千年を越える桜を後世に伝えるために、そこに住む人々が桜と共に歩んでいる姿を通して、桜を保存することの意義を学ぶことができ、充実した研修会となった。



二日目は、陸前高田市で津波の到達点に一万本の桜を植えようと運動を進めている「桜ライオン311」の計画を聞き、東日本大震災の復興を願う人々の桜への思いを知った。

弘前公園の壮大な桜の植栽と津波の悲惨さを実際に見聞し、

桜の持つ力の偉大さを実感できた大変有意義な旅行となった。

### 会員の声

川井 洋子

私の好きな絵本「さくらのさくひ」は、桜の木ともぐらのふれあいを通して、本当の大切なものを大切にしたい...という思いを伝えていますが、今、孫達にこの絵本を読み聞かせる度に、自分ももう一度本当に大切なものを大切にしたいとの思いから、入会さ

せていただきました。とは云え、孫達の育ちの手伝いをしながらの活動はタイムラグが合わず、名簿に名を記すだけの存在ですが、時に会員の皆様と活動できた折は、春の開花に添って夏も秋も冬も、地道にそして熱い心で、何よりも、大切なことを守りながらもさり気なく楽しんでおられる姿に、感銘しています。

烏帽子山公園の桜と自分の心の中の桜を重ねながら、一緒に楽しみませんか。入会をお待ちしています。

今シーズンの冬は、二月末の大雪でさらに例年になく低温が続く、雪害が見られる状況です。その低温続きにもかかわらず、鳥類の食害が見られ、花数に少し心配しているところです。

市建設課主導での樹勢回復作業も今年で五回目となりましたが、葉の数が多くなり大きくなってきました。花色にも赤みが増してきましたので、着実に効果を上げていると思われれます。

定期観察会も冬を除いて毎月行っていますので、皆様のご参加をお待ちしております。